

まえがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-02-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大野, 旭, 小松, かおり, 長沼, さやか, 山本, 達也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/9312

まえがき

読者のみなさんにはぜひ、本報告書の巻末にある既刊リストをもご覧いただきたい。平成 11 年度に伊豆修善寺町で現地調査を実施し、報告書の第一冊を公開して以来、今年度で合計 17 冊刊行したことになる。私が静岡大学に着任してきたのも平成 11 年で、当時在職していた先輩たちと共に伊豆入りしたことを昨日のように覚えている。それ以来、県東部から少しずつ西部にシフトし、今年は再び静岡市の東、清水区由比に赴いた。17 ものところで地元の方々から地域の歴史と文化について教えていただき、文献研究と合わせて報告書を書きあげた。地域のなかで学び、地域に還元してきた、とスタッフ一同は胸を張りたいところである。

平成 11 年の時点ではまだ、「地域貢献」云々とのスローガンは声高に叫ばれていなかった。もちろん、地域に貢献することだけが教育の目的ではない。私たちは百年の大計から、人材育成をしている。学生はふつう大学に入って一年間は基礎勉強をし、二年目にコースを選ぶ。二年生には文化人類学をはじめとするさまざまな人文学的な知を教え、フィールドワークの技法を伝える。そして、三年生になったときに、現地に向かう。一週間という短期間中に学生たちは苦労しながら、「生きた知」を現地の人々から吸収してくる。年末に報告書がこのような形で完成した頃には、すでに立派に「一人前に育っている」と私たち教師の目にはそう映る。卒業するときにはもう、先祖代々培われて来た地域伝統の叡智を社会に役立たせる術を身につけている。22 年間にわたって教育の現場に立ってきた経験からの感想である。

「人文学的な知は不要だ」と宣言されたかのような通達が今年、文部科学省から届き、日本社会に衝撃をもたらした。いわゆる「即戦力」を求める利益追求型社会の悪しき現れの一つだろう。まるで 1960 年代に世界中で揶揄されていた「エコノミック・アニマル」風の間人を再び製造せよ、との性質を帯びた人文系学部の再編を求めた命令である。人文社会科学は、落ち着いた環境のなかで、社会と文化について基礎から考えることのできる人材育成を目標としている。短絡的なやりかたは、底の浅い人材育成という代償をはらうことになるだろう。学生には、じっくりと課題に取り組み、自分の頭で思考する時間と環境を与えたいものである。

17 年間の蓄積は、静岡大学人文社会科学部（旧人文学部）文化人類コースに勤めてきた先輩たちの功績でもある。長く調査研究を共にしてきた小松かおり教授は来年度から別天地で活躍することになったが、今年度から新たに山本達也准教授を迎えた。今年度の調査に参加した学生たちが全員、報告書を提出できたのも、由比の粕谷祥道氏はじめ、地域の方々からの温かいご支援があったからである。記して御礼を申し上げる。未熟な文章ではあるが、記録は時間が経つに連れ、歴史の証言に昇華する。人文学的な知の精粹もここにあるので、今後もずっと見守っていただきたい。

平成 27 年 11 月吉日

大野旭（楊海英） 小松かおり 長沼さやか 山本達也